

平成 23（2011）年度屋久島異文化交流セミナー実施報告書

鹿児島大学留学生センター

大嶋 真紀

本報告は、平成 24 年 3 月 8 日・9 日に実施した「屋久島異文化交流セミナー」の実施状況に関するものである。セミナー実施の企画は、平成 23 年の後半から留学生センターで話し合わせ、屋久島環境文化財団理事の根建心具氏とも意見交換を行った。また平成 24 年 2 月には、屋久島環境文化研修センターの川内事務局長をはじめとする 3 名の担当者、及び鹿児島大学国際事業課と事前打ち合わせを行い、学長裁量経費を申請するなどの手続きを行った。留学生とは、当日プレゼンテーションを行う 2 名の準備を進めるとともに、ポスターを送付する 10 名前後の留学生とも打ち合わせを行い、ポスターを制作した。アイス・ブレーキングを担当する留学生とも事前打ち合わせを行った。またこの間、研修センターの方でも招聘する中学生との異文化交流セミナーの下準備を行っていたと聞いている。

鹿児島大学側からの参加者は、留学生 18 か国 26 名、日本人チューター 3 名、引率教職員 5 名であった。屋久島環境文化研修センターの職員並びに、岳南中学校の生徒 10 名、校長先生と教員などの参加があった。

当日留学生は朝 8 時集合。集合時間はほぼ守られ、大学のバスで鹿児島本港埠頭に移動。高速船ロケットに乗船した。約 2 時間後、安房港に入港。研修センター職員の出迎えを受け、バスで研修センターに向かった。センターでは昼食が用意され、イスラム圏、ベジタリアンなどの留学生も含め、無事昼食を終えた。その後、バスで、千尋の滝、平内海中公園、大川の滝、ガジュマロの木などを見学。夕方、センターに戻った。

施設のオリエンテーションを受けたあと、中学生たちを迎え、6時から「異文化交流セミナー」を開始した。大嶋留学生センター長と根建屋久島環境文化研修センター長による挨拶のあと、場所を変えて、留学生によるアイス・ブレーキングが行われた。筆者は、その内容について熟知していなかったため、不安はあったが、フランスからの留学生がブルターニュ地方のダンスを紹介、簡単なダンスであるため、次々と輪を広げ、参加者全員が室内をぐるぐる回る形で、ブルターニュ・ダンスを踊り、笑いとともに一気に場の空気がなごみ、どうにかアイス・ブレーキングが行えたと思う。

次に食堂に移り、夕食となる。ここでもまたイスラム圏とベジタリアンには特別食を用意し、そのような話題も交えながら、各テーブルに分散した中学生

たちとなごやかに夕食を楽しんだ。

次いで階段教室に移動し、留学生2名のプレゼンテーションを行った。ともに島国であるツバル、ソロモン諸島出身の2名がパワーポイントを使った英語でのプレゼンテーションを行い、黒川国際事業課課員が通訳を行った。ソロモン諸島のパワーポイントは和訳されていた。約30分の時間制限ゆえ、2名とも急いで行ったが、それぞれの島嶼圏の生活、自然環境、産業などがフルに紹介された。

そこから再び、食堂に戻り、今度は各テーブルごとに中学生を2名交えて、グループを構成し、環境文化研修センターの恒松主査のリードにより、屋久島を知り、世界を知るためのゲームを行った。通訳は研修センターの永岡さんが担当した。

屋久島の人口は？ 面積は？ にはじまるクイズ形式で、中学生が答えを日本語で言い、留学生がそれを理解したかどうかをマイクで確認するというもの。また、一つの質問には、回答した留学生が所属する国についての同種の質問が繰り返され、留学生が日本語で正しく言えた場合、その答えを中学生が報告するという形でゲームは約1時間続いた。グループ内には日本語が流暢でない留学生も混じっていたため、ゲーム全体がスムーズに進むかどうかはじめは心配したが、問題はまったくなく、留学生と中学生のコミュニケーションが円滑に進み、しかも笑い声も絶えず、充実感の溢れるセッションとなり、9時の終了時刻をまたたく間に迎えた。

帰宅する中学生を見送ろうと、留学生が自然に列を作り、手をかざして中学生たちがその下を通り抜け、最後の別れとなった。3時間があっという間に過ぎた。

翌日は、屋久杉ランドの見学を行い、この際にも研修センターの職員の方々に案内をしてもらい、昼の高速船で鹿児島に戻った。

以上が1泊2日の屋久島異文化交流セミナーの概略である。留学生と地元の中学生がどのような交流ができるかというところが最大のポイントであったが、セミナーの状況を見る限り、交流は活発に行われたと捉えることができる。留学生にとっても、中学生と交流するということが想像以上によい思い出となったと思われ、また中学生にとっても、世界各国、とくに遠い、珍しい国々からの留学生との交流は一生の思い出になったであろうと推測できる。島嶼圏からの留学生のプレゼンテーションを屋久島という同じ島嶼地域の中学生や職員がどのように受け止めたかという点も気になるところであるが、時間の関係でそこまでは確認できなかったことは、今後への反省点となろう。将来的には、島嶼圏に固有の問題や条件を互いに共有し、さらなる発展にどうつなげていける

かなどといった議論が留学生を交えて展開できれば、異文化交流セミナーの意義はさらに深まるであろうと思われる。今後の課題としたい。

本事業を実施するにあたり、誠心誠意ご協力いただいた屋久島環境文化財団、屋久島環境文化研修センター、岳南中学校、鹿児島大学国際事業課、鹿児島大学に主催者として心から謝意を申し上げまするものである。